

9月5日

E フェスタ ワークショップ 兼定例会「介護は誰の役割？」

私の親は 7 年前に他界しました。私は次男で子どもは当時 2 歳と 3 歳でした。兄は長期単身赴任中で、いずれの妻も働いていました。親の介護を機に、お互いの妻も交えて兄弟で話し合いました。そして買い出しや食事介助・洗濯・書類手続きなどを分担し、社会支援サービスも利用することにしました。

親は生前、子どもに迷惑かけたくないと口にはしていましたが、皆の温かい介護を受け、安らかに眠りについたことが今でも思い出されます。

私の経験からですが、介護は社会支援を堂々と受けること、また個人レベルで親の介護をどのようにおこなうか決めることが大事だと思います。そうすることで心のゆとりや覚悟ができ、介護を前向きにすることができると思います。

(奥田 俊哉)

11月21日

定例会 講演会 「ワーク・ライフ・バランスの取り組みについて」

講師：高岡ガス株式会社 代表取締役社長 菅野 克志さん

従業員 65 名のうち女性は 10 名と男性の多い企業ですが、育児・介護休業制度の積極的な取得促進、『ノー残業デー』の採用など、男性女性と分け隔てなく、育児や家事への協力がしやすいように社員への福利厚生面の充実に力をいれておられました。

また、社員のスキルアップのため、講座受講や資格取得支援、費用負担などワーク・ライフ・バランスの推進に努めておられました。



(沢田 哲也)

2月15日

定例会 料理教室

親子合わせて 11 人の参加がありました。今回はオリンピックを応援しようと、鮭のカツレツ（ロシア料理）、栄養たっぷり温まるニラ卵スープ、シーチキンとミックスベジタブルのピラフ、りんごマフィン、クルミとココアのマフィンのデザート 2 種と盛りだくさんのメニューでした。

フードプロセッサーを使って時間短縮で調理でき感激しました。また、子ども中心に調理をさせ、ほめて伸ばす手法で行われました。子ども達も一生懸命やってほめてもらえることで、自信につながった料理教室になったのではないのでしょうか。

(奥村 みさ子)



2月23日

地域別研修会

毎年この時期に開催される氷見・射水・高岡合同の研修会。まず県からの説明で、富山県の女性就業率は全国 7 位、正社員割合が 1 位！共働き率 5 位とトップクラスの成績にびっくりしました。しかし、男性の家事育児の時間は、全国平均に比べ相当低いことにさらにびっくりしました。

続いて、高岡の推進員有志の寸劇「女子高生の会話より～デート DV 編～」では、大胆なセーラー服姿で笑いを取りつつ「自分も大切、相手も大切」というメッセージをアピールしました。

講演会では、コミュニティハウスひとのま共同代表の宮田隼さんより、「『コミュニティハウス』の実践からみえてくるもの」と題してお話を伺いました。家庭での当たり前が、実は外から見たら DV であったという怖いお話もありました。みなさんも自分（家庭や職場）の常識は世間の非常識では、と一度考えてみられたらいかがですか？

(朴木 行子)



編集後記

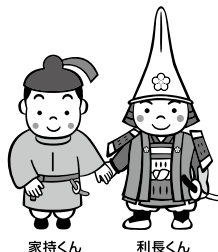
私も巻頭言の田中さんと同じく 2 期 4 年経験させていただき、多くの気付きを与えてもらいました。これからの家庭や仕事、そして自分らしく生きる指針に生かせればと思います。また推進員を退任される皆様もこれで終わりではなく、日々の生活や職場での出来事に、学んだ事柄を当てはめて考え続けていただければと思います。

最後に広報発行にあたり、今までご協力いただいた全ての皆様に本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。

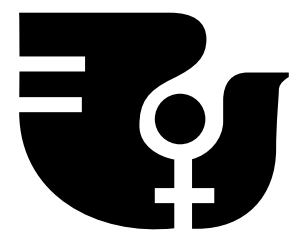
(高梨 真宏)

広報部員

高梨 真宏
朴木 行子
山口 義雄
海内 隆行



家持くん 利長くん



平等・開発・平和

ともだち共立

第 16 号 富山県男女共同参画推進員高岡連絡会

推進員を経験して思うこと

副会長 田中 利幸



縁あって推進員として活動してきましたが、2 期 4 年の任期もあと僅かとなりました。私たちのやることは啓蒙普及活動だと思うのですが、「男女共同参画」の範囲は社会生活全般にわたり、捉え易い反面、既成概念に捕らわれ伝え難くなったり、啓蒙にしても実践にしても色々と考えさせられたりした約四年間でした。

推進員をしてよかったことは P T A 活動とは違い、様々な年代やボランティア活動をしている方と知り合え、共に活動し、多様な考え方や在り方を知ったことでした。

任期中は共同参画を意識し、講演会やワークショップなどで勉強しました。小学校区においては懇談会を開催し、広く啓蒙活動を行いました。それらの中で感じたことは、人によって「男女共同参画」についての理解度や興味に大きな違いがあることでした。また充分な参加者を集められずに、興味を引いてもらう告知や内容を考えさせられました。

私自身「男女共同参画」の意識付けだけではなく、全体として皆がより幸せで過ごし易い社会や家庭・職場・学校はと考えるようになってきました。

まだその答えは見つかってはいませんが、これからの生活の中でも「男女共同参画」を頭の片隅に置き、今までの活動とは違ってマイルドに生活の中で活かしていきたいです。

悩んでいることは ひとりで悩まないでご相談ください ありませんか

DV(夫や恋人からの暴力)
家庭や職場のトラブルや悩み事など
高岡市男女平等推進センター相談室
TEL 0766-20-1811

平成 24 年度の
主なデータ

相談件数：3,379 件(延件数)
主な主訴：①DV 1,911 件(56.6%) ②生き方 734 件(21.7%)
③夫婦の問題 209 件(6.2%)
年齢別：①40 代 1,502 件(44.5%) ②30 代 988 件(29.2%)

相談時間 9:30~16:30 月・火・水・金・土
14:00~20:00 木

【電話相談】【面接相談】(面接相談は予約が必要です。)

※休館日は、毎月第 4 月曜日・12 月 29 日から翌年の 1 月 3 日です。
(相談業務は毎週日曜日が休みです。)

高岡市末広町 1-7 (ウイング・ウイング高岡 6 階) ●JR 高岡駅前

相談室より

相談室では一人ひとりの気持ちや考え方を尊重し、相談者自身が自分の力を発揮して問題解決に取り組んでいけるようなサポートを行っています。

電話相談や面接の中で相談員とともに問題を整理しながら、今後の見通しをつけていくための知識や情報も提供しています。

この広報紙は高岡市男女平等・共同参画課の
ホームページからもご覧いただけます。



特集

≡二地区懇談会

本年度は各校区にて懇談会を開催して、2年間の学んだ成果を地元の皆さんにお伝えし、また共に学びました。報告書からいくつかご紹介します。

9月13日 牧野校区 牧野公民館

講演会「富山県に住む外国の子供たち」
講師：アレッセ高岡代表 青木 由香さん

県内には 13,419 人の外国人が居住しています。うち市内では 212 人の子どもが通学しており、言葉の壁や学習内容が理解できず、またいじめで不登校になる子どもも少なくはありません。そんな子どもたちを元気よく通学させる支援を、青木さんのグループは行っています。また高校進学も問題のひとつで、子ども達の可能性を發揮できるように取り組んでおられます。子どもの問題なのでPTAの親御さんが多く来てくださいました。



10月30日 東五位・千鳥丘校区 東五位公民館

中学生対象の「デートDV予防啓発講座」
講師：高岡市男女平等推進センター デートDV等予防啓発プログラム検討チームの皆さん

講座名について「デートDV」だと若い男女間の問題だけの講座と捉えられないかと市役所の担当者から言われましたが、インパクト重視でこのままにしました。お蔭様で、小中学生のお子さんを持つ親御さんに多数お越しいただきました。

受講前は暴力とはなにかを推進員も参加者も十分に理解していない気がしましたが、受講後はDVについていろいろ気づくことができました。このことからDVだけでなく、いじめ・虐待・しごき・パワハラ・セクハラなど全ての暴力についてわかりやすく伝えることができる言葉はないだろうか？と感じました。



内容①前半「意識チェック・暴力を知る」

参加者それぞれの経験から、嫌悪感を抱いた人もいたのではないのでしょうか。しかし、子どもを持つ親としては、加害者には、悪いものは悪いということを理解させ、被害者には、助けてくれるところがあると希望が持てる重要な場面だと思いました。ファシリテーターの言葉だけでなく、新聞記事など報道された客観的なものの活用で、もっとインパクトのあるものとした方がいいのではないかと感じました。

内容②後半 ロールプレイやディスカッション

皆さんの意見が活発に出て、おおいに盛り上がりました!! 解決策があるという希望をもって講座を締めることができ、大変良いカリキュラムだと思いました。ぜひ、市内の中学生に受講して欲しいと感じました。



11月8日 石堤校区 石堤小ランチルーム

講演会「DVのこと知ってますか？」
講師：高岡市男女平等推進センター相談員

DVとは何か、そして市の相談件数や内容など現状の説明を受け、DVは他人事ではなく、ごく身近なところで起きていることを知り驚きました。

DVは子どもへの影響が大きいと知り、参加者は子育て真っ最中の人が多かったので、加害者にも被害者にもなってはいけないということを改めて感じ、学んだ時間でした。



11月22日 国吉校区 国吉公民館

講演会「男女共同参画について」

講師：国吉光徳保育園園長 光徳寺住職 安居 登さん

男女共同参画のイメージや常識がつくるものなどについて解りやすく、楽しくお話しして下さいました。男女共同参画社会を進める中で妨げとなる男女の役割についての固定観念をマンガ（サラリーマン専科）を用いて楽しくチェックすることができました。まだまだ男だから、女だからという固定観念が自分の中に存在していることが分かりました。

これからは男女に関係なく、お互い人間として認め合い、尊敬しあうことで意識を変え、まずは家庭から、そして地域社会へと男女平等・共同参画を推進して行きたいと思いました。



11月29日 定塚・平米校区 平米公民館

講演会「男女がともに介護に向き合うには…介護って誰の役割？」

講師：高陵・下関地域包括支援センター 水上 浩延さん

始めに推進員が介護についての疑問や問題点、家庭での役割や職場環境の整備など、男女それぞれの個性を生かした介護の重要性を説明しました。次に水上さんが、介護にあたっての行政・家族・地域との連携、福祉サービスの上手な使い方や、地域包括支援センターの支援内容についてわかりやすく講演して下さいました。

懇談会の告知が、介護にはまだ縁の薄い小中学校PTA中心であったため、思ったより参加者が集まりませんでした。しかし地域の方の参加があり、家事のみならず介護へ男女が共同して参画するという内容に関心が高かったように思いました。



11月30日 成美・能町・万葉校区 成美公民館

講演会「男女共同参画社会において企業としての取り組み」

講師：高岡信用金庫 人事部部長 吉田 和人さん

平成 22 年「女性が輝く元気企業とやま賞」受賞の理由は、女性の管理職への積極的な登用と、仕事と家庭の両立をめざした支援に取り組んでいることが評価されたことでした。現在職員は女性 3 割男性 7 割、新規採用は男女同数をめざしています。女性は結婚を機に離職する人が多く、企業として人材確保のため新しい制度を導入中です。

①キャリア・アップ制度。契約・パート社員から正社員へ。

②職域拡大の取り組み。女性職員の管理職への登用。

③育児・介護休業制度を利用しやすい環境づくり。制度施行後 26 名が育児休業を取得して全員復帰しています。

女性が活躍するためには、企業トップが方針を明示すること、支援や仕事への評価を適正にすることが大切であると実感した講演会でした。



民間支援基金パサバは皆様の支えで成り立っています!



DV被害者が、自立の一步を踏み出すための一時支援金を無利子で貸出します

DV(ドメスティック・バイオレンス)問題は社会認知もされ、徐々に支援の輪も広がっています。しかし未だ被害の相談件数は増加しており、子どもへの影響も深刻な問題になっています。パサバは、誰もが安心して暮らせる、何事も暴力で解決しない社会を願って活動します。

賛同するみなさんの会費・寄付で運営しています。あなたのサポートをお願いいたします。

〈会費・寄付振込先〉

ゆうちょ銀行〇七九店(079)当座預金口座番号 0057876

口座名 サポート基金パサバ

問合せ先: 080-6358-0838

パサバって?

フランス語で、
「一歩一歩」という意味です。

